

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社ライフプランニング		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	平成37年12月16日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100545-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

25年3月より6床増床し、利用者と共に家族やそれに伴う関係者の数も増えてきましたので、より楽しい時間を皆さんに提供できる環境が増えたと思います。今後も地域の皆さん方とより親しく付き合いが出来るようなホーム作りを頑張っていきます。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの一番の特色としては、利用者に対して「出来ることはやってもらう」のホームポリシーが利用者の暮らしを支える大きな要因となっているところです。入居当初、車椅子を常用していた利用者も「自らができる力を見出して」単独歩行をされています。また、食事では、厨房で自らの茶碗にご飯をよそい食卓まで運ぶ情景には驚きでした。下拵えを含む食卓の準備、しっかりとした完食、後片付け、食器洗いなど一連の暮らしの動作に利用者自ら携わっています。次には職員のコミュニケーションの良さが挙げられます。看護師の資格を有する管理者とそれを支える経験豊富な職員が、新人職員を暖かく包みながらの指導の良さは、職場全体に和やかな雰囲気を醸し出しています。常にサービスの質の向上を目指す「GHひだまりの丘」の職員の弛まざる努力を垣間見ることができました。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼でも全職員で唱和し、意識の統一を行っています。	理念の共有化を図るため、毎日、全職員で唱和をするほか、ネームプレートにも記載されており、理念を身近なものとしています。また、職員の利用者に接する姿と言葉かけを見ても理念が十分に身についていることが伺えます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サービスの活用を柱に、近隣の方々と触れ合う機会を設けるようにしています。	職員は、地域で暮らし続けることへの支援及び地域との支え合いを十分に理解しています。また、地域住民の一員であることを自覚して、住民の方々との交流を進んで行っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、認知症についての説明を行ったりしました。又ご家族や外部の方々を交え後見人制度の在り方等を講義形式で行いました。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では質問や意見が出る度、改善を必要とす場合においては、すぐに反映するようにしています。	家族、元民生委員、地域包括支援センター職員などのメンバーにより定期的な会議が開催されています。会議の内容もノロウイルスへの対処など、タイムリーな内容も視えますが、家族の出席者が少なく多くの家族に対する啓発も不足しています。	開かれたホームの運営をより多くの家族に知っていただくため、メンバーとしての出席要請の取り組みに期待します。また、議事録を全ての家族の元へ送付しながら、運営推進会議の意義を伝える取り組みにも期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り、助言や支持を頂いています。	市の担当窓口とは、普段は介護保険に関する疑問の解決や助言、また指導を頂いておりますが、今後は外部評価の結果を報告しながら、取り組むべき項目について伝え、より一層の協力関係を強化しようとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、スタッフ全員に拘束になるような事をしているか質問し、これからは行わないと全員で約束を立てています。	毎月開催されるサービス担当者会議に合わせて、身体拘束防止に関する委員会を設けて職員全体で身体拘束のないサービスを検討し確認をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事は他のスタッフにも伝え徹底しています。又毎月の会議においても今後も虐待を行わない事を全スタッフで誓っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修も行い、必要性や制度について学んでいます。又利用者、家族に対しても進めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かな質問や疑問にも適切に答え、契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用しご家族が外部の方々を交えた場で意見や質問を出来るように取り組んでいます。	サービスも含め運営全般について、家族の訪問時や電話など沢山の会話の中から意見などを頂くように努めています。今後は仮称「アイデアボックス」の設置などで、より多くの家族の意見を頂きながらサービスの向上を図りたいと計画されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に取り入れる様にしています。	管理者と職員間のコミュニケーションはとても良好で、意見や提案もごく自然な会話の中から生まれているようです。些細な仕事でも終えたときの報告には必ず「ありがとう」の言葉が聴かれます。お互いが常に感謝の気持ちで職務に就かれている様子は、ホーム全体を明るくしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があるごとに職員に薦めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり行っていません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようになるまで、スタッフが優しく対応しています。又不安の原因を聞き、出来るだけ対処しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っています。 食事の好き嫌いや、外出の回数等にも反映するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にそうなるように心がけ、ケアしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活内容を定期的に家族へ報告し、現状を理解してもらいつつ、家族の安心の提供と、訪問しやすい環境の整備を心がけています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り地域サービスを活用するようにしています。	利用者が行きつけの美容院、スーパーマーケット、クリーニング店などを利用する際には、家族とも相談しながら職員も同行するなど馴染みの人や場所への維持継続を支援しています。恒例の花火大会も利用者、職員がみんなで楽しむイベントとして大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同の作業をしてもらったりしながら、お互いがなじみになれるように、常に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族との連絡をとる場合もあり、イベントや会議等に参加してもらっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行っています。本人本位で楽しめるような事をスタッフで探しながら生活の構築をするよう心がけています。	利用者の抱く思いや意向は、寄り添う関係と本人本位の言葉かけなどで把握するようにしています。職員は決して「無理強い」はせず利用者が自ら行動できるよう温かく見守ることとしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握し行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの前後には必ず、本人又はご家族の意見や希望を取り入れています。意見が無い場合にも、本人本位のプラン作成を心がけています。	職員は、利用者個々のケアプランの内容を十分把握しながら、日常のケース記録、夜間の状況を克明に記載された日誌、また、申し送りなど細やかなモニタリングによりケアプランの見直しの是非が検討されています。	日々の記録は全て職員の供覧が行われ、利用者の身体状況を共有することができます。ただし、細やかな日々の諸記録がケアプランのどの部分に関連があるかなどの記載については定かではありません。今後は諸記録の内容がケアプランにいかに連動しているかの取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で情報を共有し必要時には見直しができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり行っていないと思われます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っています。	従来からのかかりつけ医への継続した受診支援が行われています。また、家族の希望によりホームの協力医療機関へ転院することもあります。紹介状などにより円滑な転院支援ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療を行っている方が多く、定期的に来てくれる医師に気づいた事等は伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針は備え、ご家族への説明、同意書はいただいています。	家族に対し重度化や終末期に向けた説明を行い、一部で同意書も頂いています。現在のところホームでの看取りは行っていないが、将来的には対応が必要であると考えて職員間でも話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の避難訓練と避難時に持ち出せる災害用グッズも備えています。地域の方々も避難訓練時には少数ながらも参加していただいています。	防災関連2企業の協力による災害避難訓練など総合的な訓練を毎年実施しています。訓練に際しては家族や地域の方々にも予告して行われていますが、住民の参加者は少数となっており、万一の臨場には不安が残ります。	災害時の避難等、特に夜間での避難では地域の住民の方々の支援に依るところが多く、十分な理解と協力が必要です。ホームでは災害時のマニュアルもありますが、住民の方々の役割、ポジションも定めて協力をお願いする取り組みが望まれます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています。	職員は利用者に対する適切な会話により、人格の尊重やプライバシーを大切にした支援が行われています。特にトイレへの誘導や入浴時への支援では十分な気配りをして努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に食事の献立に関して意見を伺いながら、考え、希望の表出を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っています。季節感のある服装等を来てもらえるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、後片付けにも協力してもらい、出来る事はやってもらえるように支援しています。	「できることはやってもらう」のホームポリシーは食事の際も見ることができます。管理者等が作った献立を職員は利用者の手を借りて調理し、食事中は職員の笑顔作りで楽しい光景を見ることができます。食卓での準備、後片付け、食器洗いなど全ての利用者が行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っています。	ほぼ全ての利用者がトイレでの自立した排泄を行っています。できる場合は見守り、どうしてもできない部分のみ支援しています。排泄パターンもよく把握され、さりげない誘導で支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取や適度な運動も取り入れ便秘の予防、改善するように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あまり個別化はできていませんが、希望があれば入浴出来るようにしています。	最低、週2回の入浴を楽しんで頂いています。利用者の体調や入浴拒否にもそのまま受け止めて、体調回復を待って入浴をしていただき、シャワー浴や清拭も加わり清潔な暮らしの継続を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する目的に応じて、ご家族やスタッフが支援しています。	夏季の好天時には、ほぼ毎日の散歩が恒例となっています。近所めぐりで住民の方との挨拶も楽しみの一つとなっています。ドライブを兼ねた買い物、市役所地下の食堂で外食などで楽しんでいます。冬季間は専らホーム内でのレクリエーションなどで体力の維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には所持してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ行っています。	ゆとりのある三つの大きなソファ、食卓の広いスペースなど、吹き抜けの天井と相まって開放感の心地よさが溢れており、利用者は一人ひとりのペースで寛いでいます。中央の畳敷きの小上がりもありますが冬季間は余り利用はないようです。温度・湿度管理も快適さへの気配りが十分行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や物の持ち込みを薦めています。ベッドや家具の配置も本人や家族等の好みに任せています。	大きな収納スペースにより居室は沢山の家具等の持込にも関わらず広い空間を保持しています。馴染みの整理ダンス、テレビや家族の写真が貼られているなど、安心の暮らしの場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っています。		